

未来の燕を描くプロモーション動画

燕市が目指すまちの未来像を広く知ってもらうため、「私の卒業プロジェクト」とタイアップし、燕市を舞台にしたオリジナルドラマ『たからもの』を制作しました。

「ものづくり」を核とした持続可能なまちづくりの取り組みをドラマ仕立てに描きました。



ストーリーと見どころ

大学受験失敗後、将来に悩む来栖明子（田口音羽）は、燕市の職人の精神と技術に触れ、その魅力を知る。同じく将来に悩む友人の金本掣（柚来しいな）は、父の鋳起銅器職人の跡を継ぐべきか迷っていた。さらに失恋を経験した雪のために明子はある計画を立てる。

進路や恋に悩む2人の青春群像劇を通じて、若者が悩み、動き、歩み出す様子と、前へ進む若者を後押しする大人たちの姿から「ものづくりのまち燕」の未来像を描く。

私の卒業プロジェクト

若手俳優の登竜門としても知られるプロジェクト。芸能事務所への所属を問わず、俳優を目指す若者を対象に参加者を募集し、累計応募者数は3,200人を超え、Z世代から絶大な支持を集めている。

燕市では、第5期「こころのふた〜雪ふるまちで〜」の撮影が行われた。



燕市公式YouTubeで公開中!



本編・Vlog
はこちら▼



出演者

たぐちおと は かんひでよし ゆずき
田口音羽、簡秀吉、柚来しいな、
ひめこまつまさ しみずかいり ふじの ゆめ
姫子松栞、清水海季、藤乃唯愛、
まわたりりょう おごえはるか
馬渡綾、小越春花（友情出演）、
あかまつしん
赤松新

燕市産業史料館の機能強化



最新デジタル機材の導入や土蔵のミュージアムショップへのリニューアルなど、ものづくりを核に若者と企業が繋がる場を新たに構築します。

「若者・地域・企業が繋がる仕組みづくり」として

- デジタル機器を活用した「ものづくり体験」の実施
- 企業によるセミナーやイノベーション創出ワークショップの開催



「若者・地域・企業が集う場」として

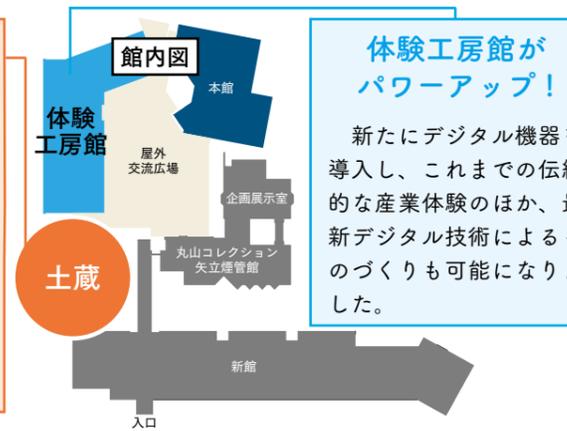
- デジタルものづくり機器の導入（3Dプリンター、レーザーマーカ、設計用パソコン）
- 産業史料館の土蔵にショップ機能をつけた改修



土蔵をリニューアル!

ショップ機能を新設し、ミュージアムグッズや燕市ならではの職人が手がける「ぐい呑み」などを販売予定!

3月には、土蔵改修ワークショップとセミナーを開催します。



体験工房館がパワーアップ!

新たにデジタル機器を導入し、これまでの伝統的な産業体験のほか、最新デジタル技術によるものづくりも可能になりました。

市の取り組み

市では、「燕市で働きたい」、「燕市に住みたい、住み続けたい」と思う人を増やすことを目的とした持続可能なまちづくりを目指しています。

燕市を未来につなぐ、2つの取り組みを紹介します。



燕市産業史料館

開館時間 午前9時～午後4時30分
休館日 月曜休館、祝日の場合は翌平日
料金 大人400円、高校生以下100円
住所 大曲4330-1

未来につなぐまち"燕市"

令和6年5月、燕市はSDGsの理念に沿い、新たな価値を生み出す取り組みを推進し、持続可能な開発を進める可能性が高い自治体として、内閣府から「SDGs未来都市」に選定されました。

また、その取り組みを加速し、全国に展開すべき事業として「自治体SDGsモデル事業」にも選定されています。

燕市は今後も歩みを止めず、シンカを続けてまいります。

SDGs未来都市のページ▶



SDGs未来都市選定証

土蔵改修ワークショップ&セミナーを開催

※別途入館料が必要

ワークショップ

親子でアートな土壁塗りワークショップ

木枠内に土を入れ、その土壁に廃材などで装飾を施します。親子で土壁塗りを楽しめるワークショップです。

日時 3月9日(日) 午前10時～正午
定員 親子15組



申込はこちら▶

セミナー

よみがえる古民家

土蔵改修に携わるカールさんが、自身の経験や古民家を使った地域づくりの考え方について紹介します。

日時 3月9日(日) 午後2時～4時
定員 50人



申込はこちら▶

ワークショップ・セミナー講師

カール・ベクスさん

1942年ドイツ・ベルリン生まれ。建築デザイナーとしてヨーロッパや日本で活動。特に日本の民家に強く惹かれ、1993年十日町市に現在の自宅となる古民家を購入、再生に着手した後、自社を設立。現在、日本各地での古民家再生を手掛け、その数は60軒にもものぼる。



■申込み・問合せ 燕市産業史料館 ☎ 63・7666